

## 大倉工業株式会社 2021年12月期第2四半期決算説明会 質疑応答

### Q1. 合成樹脂事業の製品値上げの状況と第3四半期以降の見通しについて伺いたい。(資料 P20)

- A. 第2四半期までは今年2月に想定した国産ナフサ価格とほぼ同水準で推移していましたが、第3四半期と第4四半期は、2月に想定した時の2倍近い上昇幅が予想されます。そのことによる利益に与える影響額は約10億円です。当社では原料価格上昇に対応すべく、1次製品値上げ、2次製品値上げに注力しています。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大により、営業活動が制限されていることもあり、直接の営業活動ができないため、原料価格アップ分すべての製品値上げは現時点では厳しいと考えており、目標の6割程度にとどまる見込みです。

### Q2. 脱プラスチックへの考え方と対応について伺いたい。(資料 P25、P36、P38)

- A. 当社はフィルムメーカーであり、脱プラスチックへの対応は最重要課題の一つと認識しています。将来的には、合成樹脂事業の既存製品の一部はなくなることも覚悟していますが、フィルムやパッケージに対する環境対応のニーズは当社にとって大きな事業機会と捉えています。当社の製品群は「商品自体の品質、保存を担保」しているものが多く、環境に配慮しながら、植物由来製品、薄膜化、減量化、プラスチックリサイクルによる製品など、市場ニーズに応えた商品の開発を現在進めています。
- 「社会になくてはならない製品は何か？」を常に考えながら、当社の強みである技術力を活かして、今後も環境貢献製品の拡充に努めていきます。

### Q3. 脱炭素経営の推進の一環として、太陽光パネル設備やヒートポンプの導入を検討しているが、投下資本効率が悪化するリスクが考えられる。導入の背景について伺いたい。(資料 P37)

- A. CO2 排出削減手段として使用電力量の削減は大きな課題であり、太陽光パネルの設置やヒートポンプ導入は有効な手段であります。独自での投資は投下資本効率が悪化しますので、PPA (Power Purchase Agreement(電力販売契約) : 当社敷地や屋根などのスペースを提供し、PPA 事業者が太陽光発電システムなどの発電設備の無償設置と運用・保守を行い、PPA 事業者が発電した電力の消費量を検針し、使用した当社に請求するスキーム)の採用等、最も投資効率の良い手段を選択してまいります。

### Q4. 新規材料事業の2021年度の売上が上振れした理由について BU 別に伺いたい。(資料 P11)

- A. 売上高は、電子材料 BU の伸びが一番大きいですが、これはスマートフォンの需要が堅調に推移したこと、従来「商品」で売上計上されていた製品の一部が、同 BU で加工付加して販売する形態に変更となり、商流が変わったためです。
- 光学材料 BU は、大型パネル用光学フィルムが旺盛な需要により、フル稼働に近い状態が続いています。
- 機能材料 BU は、自動車関連、プリンター関連の需要が回復してきたことで増収となっています。

**Q5. 大型液晶パネル向け光学フィルム生産能力増強投資について詳しく伺いたい。(資料 P26)**

A. 今回の設備投資は、テレビ画面の大型化と需要増に対応する目的で、設備の改造により広幅化を図り、増産体制を確立しました。現在顧客認定手続きを行っており、9月から販売開始予定で、明年前半でフル稼働にもっていきたいと考えています。全体の能力は1.5倍になります。

**Q6. 高周波低損失基板用フィルムの開発について詳しく伺いたい。(資料 P28)**

A. 第5世代移動通信システム(5G)では、伝送損失が低く(低誘電率、低誘電正接)、高耐熱、高寸法安定性を有した高周波基板用フィルムが要求されています。端末向けのアンテナモジュールでの採用を目指し、顧客へのサンプル提供を今期中に開始します。5Gだけでなく、6Gにも対応できるフィルム性能を見据えて開発を進めており、本格的な販売は2022年末頃を計画しております。将来的には10億円規模の事業を目指します。

**Q7. 環境対応とコストの両立について詳しく伺いたい。(資料 P25)**

A. マーケットの環境対応ニーズは顕著である。数年前に比べ、ある程度の環境コストを容認する土壤は醸成されつつあります。我々としてはこのニーズに応えるべく、材料設計や製品設計の観点からコストアップを最小限に抑え、バイオ原料製品や生分解原料製品、モノマテリアル製品やリサイクル製品、薄膜化製品といった環境貢献製品の開発・拡販を進めていきます。

**Q8. 販売管理費が前期とほぼ変わっていない理由について伺いたい。**

A. 前年、新型コロナウイルス感染症拡大に合わせて当社は在宅勤務やリモートワークに取り組んできましたので、一昨年比で大きく販売管理費が減少しました。今期も、昨年と同様な体制を継続していますので、費用は昨年並みとなっています。

**Q9. 新規材料事業の今後のトレンドについて伺いたい。(資料 P24)**

A. 足元は、半導体不足や新型コロナウイルスの再拡大による東南アジアのロックダウンの影響があり、機能材料BU製品で、自動車関連での需要減を予想していますが、全体に占める影響は軽微です。主力の光学用フィルムの内、テレビ向けの大型用は中国パネルメーカーの増強が続いておりますので、いずれ踊り場が来るとは思いますが、フィルム供給は需要に追いついていません。当社製品は今後も好調に推移すると想定しています。テレビの大型化に伴い、広幅フィルム(2500mm)の需要拡大が見込めますので、これに対応するために設備投資を行っています。

**Q10. 環境型枠「木守」について伺いたい。(資料 P27)**

- A. 日本国内の建築工事等で使用されるコンクリート型枠パネルは、認証のない南洋材が多く使用されており、東南アジアからの輸入に頼っています。これまでパーティクルボードを使った型枠は国内になく、当社のオリジナル製品として開発しました。重さが軽いので現場でのハンドリングがよく、品質も現行品以上です。価格は南洋材と同水準で、FSC(森林管理協議会)認証も取得しています。世界的に森林保護は重要な課題であり、FSC 認証品のニーズが高まると考え、拡販に注力していきます。

**Q11. ワクチン培養用シングルユースパックについて伺いたい。(資料 P29)**

- A. 現在ワクチンの需要が旺盛で今後も培養用バッグは成長が見込めます。当社は海外向けに開発を進め、現在顧客評価中で、認定を前提に受注も受けています。今後、加工の自動化も進め、量産化を目指します。

以上